

変化の時代に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 光浩 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/6792

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



コミュニケーション文化学会会報

Department of Communication and Culture Society Newsletter, Otsuma Women's University.

第15号 2019. 3. 25

大妻女子大学コミュニケーション文化学会発行

〒102-8357 東京都千代田区三番町12 大妻女子大学文学部 コミュニケーション文化学科

変化の時代に

コミュニケーション文化学会会長 吉田光浩

『百万回生きた猫』という絵本を読んだことのある人は多いのではないのでしょうか。

あるときは国王の猫となり、またある時は小さな女の子の猫となる。様々な人々に飼われて生き、そして死んでゆく…。

人は、この猫のように転生を繰り返すことはできませんが、日本を含む先進諸国の人々は、過去に比べるといくつもの人生を経験できるほどの長寿社会を迎えています。その一方で人工知能の進化など様々な技術革新によって、社会や環境はめまぐるしく変化し、今ある職業が次の時代には失われてしまうかもしれないとも言われています。

20世紀まで人類は親や身の回りの年長者から生きてゆく術を学び、それを次の世代に受け継いでゆくという方法によって生き延びてきました。そのなかで想定されてきた「人生」は現代よりもずっと短く、また、学ばなければならない生きる術の選択肢もあまり多く用意されていませんでした。

しかし、現代では短期間で社会が大きく変化し、上の世代が身につけた生きる術をそのまま次の世代が受け継ぐ方法が、必ずしも幸せな選択とはならない時代になりました。変化の激しい時代に長い人生を全うすること…。現代の先進諸国の人々が直面している社会の未来像は、おそらく人類始まって以来の混沌と視界不良の状態にあるといえるでしょう。

このように、短期間であらゆる技術や知識が更新されてゆく現代では、既存の技術・知識を身につけることのみを目的として大学に進学しても、それらはたちまち古びてしまいます。しかし、大学は、もともとそのような既存の技術や知識を学ぶことを最終の目的として設けられているわけではありません。というのも大学での学びは既存の〈知〉をクリティカルな視点から見つめて解体するところから始まるからです。

現状を分析し、新たな環境に対応するために何が必要なのかを考える。そのうえで既存の〈知〉を解体し再構築することによって古い技術や知識は新しく生まれ変わります。〈知〉がどのようにして再構築され、立ち上げられるのか、その現場に居合わせ、その立ち上げのプロセスを学び取る。学生の皆さんには、知識や技術そのものよりも「〈知〉を立ち上げるプロセスを身につける力」がこれからの時代に求められています。もちろん、そこに至るまでは、幾度もトライ＆エラーが必要となると思います。しかし、この力を手に入れることができれば、社会に出てから、たとえ変化に直面することがあっても、自ら〈知〉を再構築し、柔軟に対応することができるようになるでしょう。

人はあの猫のように転生することはできませんが、時代に合わなくなった〈知〉は転生させることができます。そして、新しい知識や技術を生かして、これからの長い人生を全うすることができるでしょう。

大学教育を卒^おえた後に、自ら新たな学びを切りひらくことができるような力を身につける機会として、コミュニケーション文化学科・学会でのひと時を過ごしていただければ幸いです。